

平成25年産にんにく病害虫防除指針

◎農薬適正使用基準を守りましょう

「登録農薬」・「使用回数」・「使用時期」・「希釈倍数」を確認しましょう。

◎忘れないうちに「作業日誌」を記帳しましょう〔作業日誌は、収穫終了後すみやかに提出しましょう〕

◎降雨前及び病害虫発生前の予防防除に心がけて散布しましょう。

◎高温時及び乾燥が続いている場合は薬害が出やすいので薬剤散布は行わないようにしましょう。

平成24年8月30日

JA八戸

月	旬	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	10a当たり	
							必要薬剤量	散布量
種子消毒		チューリップサビダニ	アクテリック乳剤	1000倍	植付前2時間種子浸漬	1回		
			またはガードホープ液剤	500倍	植付前30分種子浸漬	1回		
	黒腐れ菌核病	ベンレートT水和剤20	種子重量の0.5%~1.0%	植付け前種子粉衣	1回			
	イモグサレセンチュウ		種球重量の1.0%					
	黒腐れ菌核病	またはスミレックス水和剤	種球重量の0.4%	植付け前種子粉衣	1回			
3/下~4/上	春腐病	バリダシン液剤5	800倍	収穫7日前迄	5回以内	187ml	150㍓	
4	中	春腐病・さび病・白斑葉枯病	Zボルドー	500倍	—	—	400g	200㍓
	下	春腐病	カスミンボルドー	1000倍	収穫7日前迄	5回以内	250g	250㍓
		さび病・葉枯病	テーク水和剤	600~800倍	収穫7日前迄	3回以内	417~313g	250㍓
5	上	春腐病	アグリマイシンー100	1000倍	収穫7日前迄	3回以内	250g	250㍓
		黄斑病・葉枯病	ダコニール1000	1000倍	収穫7日前迄	6回以内	250ml	250㍓
		ネギコガ	ダイアジノン水和剤34	1000倍	収穫14日前迄	3回以内	250g	250㍓
	中	春腐病	コサイド3000	2000倍	—	—	150g	300㍓
		薬害軽減	クレフノン	100~200倍	—	—	3~1.5kg	300㍓
		葉枯病	ペンコゼブ水和剤	400~600倍	収穫7日前迄	5回以内	750~500g	300㍓
		ネギコガ	マブリック水和剤20	2000倍	収穫3日前迄	2回以内	150g	300㍓
	下	春腐病	カセット水和剤	1000倍	収穫7日前迄	2回以内	300g	300㍓
		さび病・白斑葉枯病	シグナムWDG	1500倍	収穫3日前迄	3回以内	200g	300㍓
ネギコガ		トクチオン乳剤	1000倍	収穫14日前迄	3回以内	300g	300㍓	
上	春腐病	アグリマイシンー100	1000倍	収穫7日前迄	3回以内	300g	300㍓	
	黄斑病・葉枯病	ダコニール1000	1000倍	収穫7日前迄	6回以内	200ml	200㍓	
6	中	ネギコガ	シエーエース水溶剤	1000倍	収穫7日前迄	2回以内	300g	300㍓
		春腐病	カセット水和剤	1000倍	収穫7日前迄	2回以内	300g	300㍓
		さび病・葉枯病	テーク水和剤	600~800倍	収穫7日前迄	3回以内	500~375g	300㍓
		ネギアザミウマ・ネギコガ	ハチハチ乳剤	1000倍	収穫7日前迄	2回以内	300ml	300㍓
	下	さび病・白斑葉枯病	シグナムWDG	1500倍	収穫3日前迄	3回以内	200g	300㍓
		ネギコガ	マブリック水和剤20	2000倍	収穫3日前迄	2回以内	150g	300㍓

※カスミンボルドーとカセット水和剤には「カスガマイシン」が入っているので成分総使用回数は5回以内を守る。

※テーク水和剤とペンコゼブ水和剤は「マンゼブ」が入っているので成分総使用回数は5回以内を守る。

※シグナムWDGは水に溶けにくいので、少しずつ水に溶かす。

(1) 病害発生時の薬剤特別散布

※黄斑病が発生したら、ポリバリン水和剤・ダコニール1000を散布する。

※葉枯病が発生したら、ポリバリン水和剤・アミスターフロアブル20を散布する。

※さび病が発生したら、アミスターフロアブル20を散布する。

(2) 展着剤の使い方

展着剤名	病害虫の発生が無い場合	病害虫の発生がある場合	降雨が続く場合	備考
ネオエステリン(5000倍)	○			
ワイドコート(5000倍)	○	○		アミスター・ストロビー・シグナムWDGコサイド3000との混用はしない
アプローチBI(2000倍)	○	○		アミスター・ストロビー・シグナムWDGコサイド3000との混用はしない
ミックスパワー(3000倍)	○	○		アミスター・ストロビー・シグナムWDGコサイド3000との混用はしない
アピオンE(1000倍)	○	○	○	散布間隔は7~10日間程度とする

(3) 農薬混用手順例

①水に溶けやすいものから混用していきます。

水→展着剤→乳剤→液剤→水溶剤→フロアブル→水和剤

※ただし、展着剤アピオンEは一番最後に混用します。

②フロアブル剤や水和剤は、1剤ごとにバケツに少量の水で溶かして、かき混ぜてから加えます。

③薬害を避けるため、なるべく使用直前で混用するようにする。